

縄文早期後葉の東海系土器の岩石学的分析 —愛知県南知多町天神山遺跡—

三島理依⁽¹⁾・須賀永帰⁽¹⁾・門脇誠二⁽²⁾

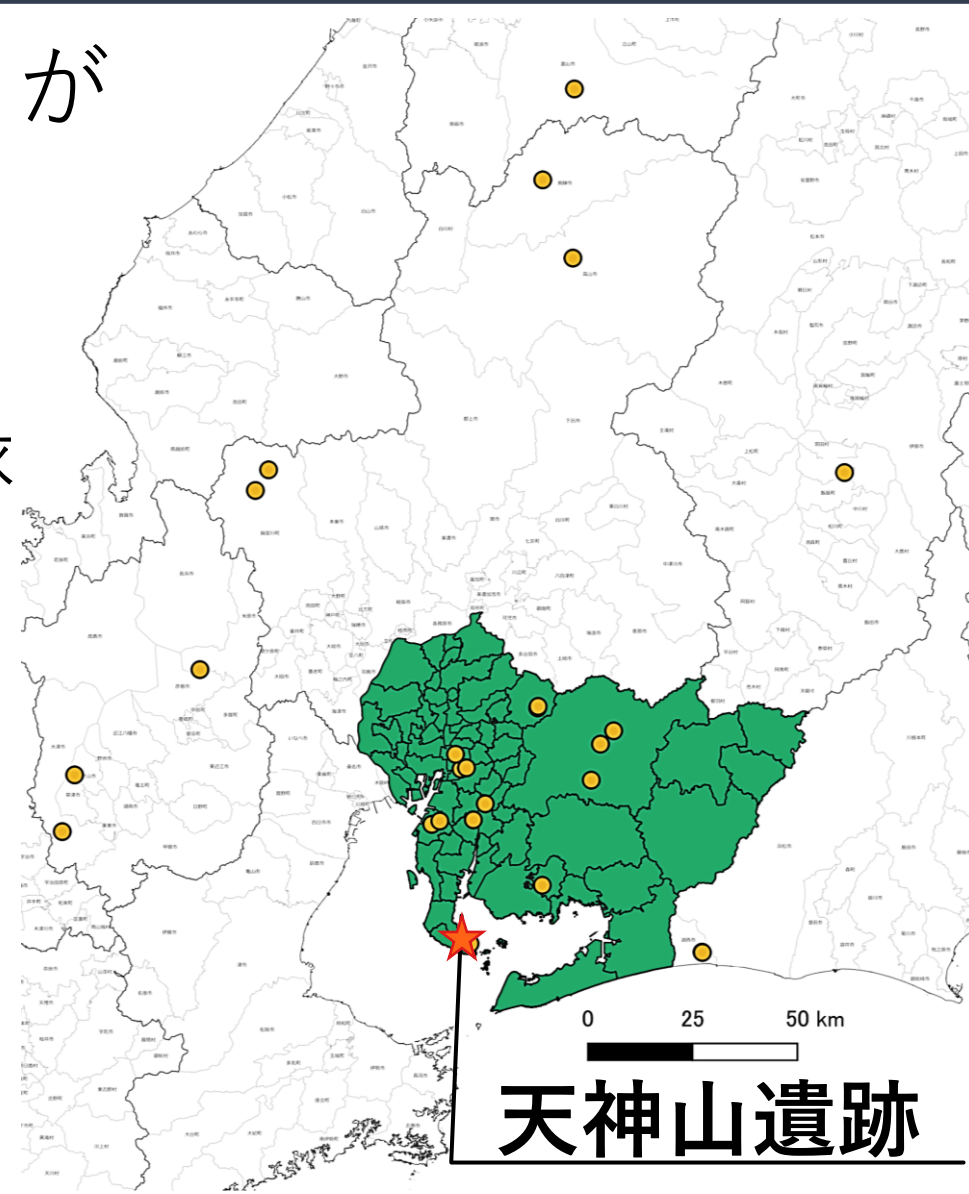
(1)名古屋大学大学院 環境学研究科、(2)名古屋大学博物館

1. 研究の背景・目的

背景: 縄文時代早期後葉に「東海系土器型式」が広域分布した背景となる、人類活動や社会について明らかになっていない。

目的: 東海系土器型式の製作行動に関する記録として、型式と胎土(混和砂)の対応関係について調べる。

図1 天神山遺跡の位置および天神山遺跡出土の東海系土器型式の分布(一部)。
「国土数値情報(行政区画データ)」(国土交通省)
(https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-N03-v3_1.html)、および地理院タイル(白地図タイル)を加工して作成



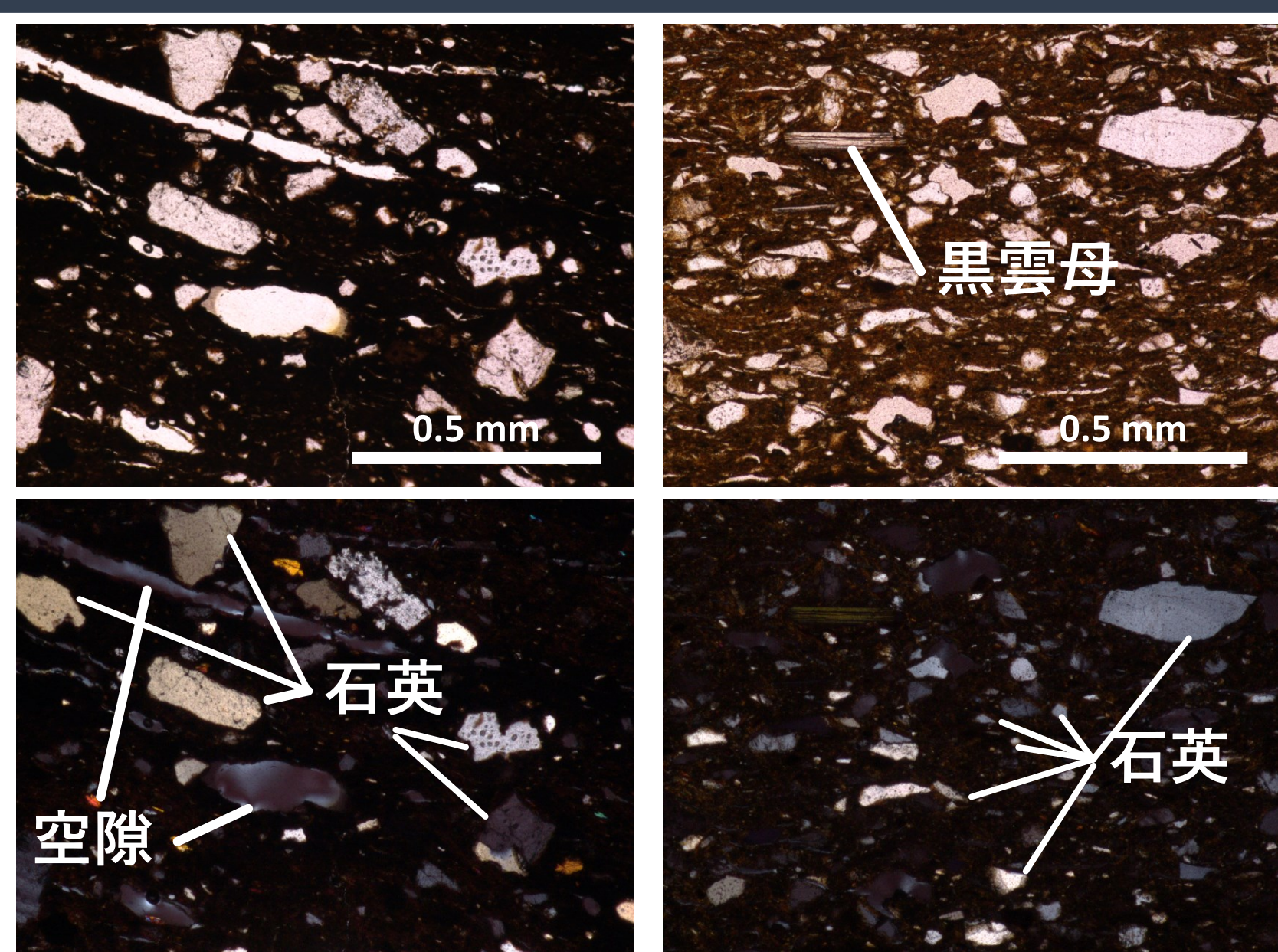
3. 分析方法

① ポイントカウンティング

- 偏光顕微鏡下で岩片/鉱物の種類を判別
- 薄片ごとに岩石鉱物粒子・基質(粘土)・空隙の頻度を計測

② 対応分析

図4 偏光顕微鏡写真
(上:単ニコル、下:直行ニコルで撮影)



4. 結果

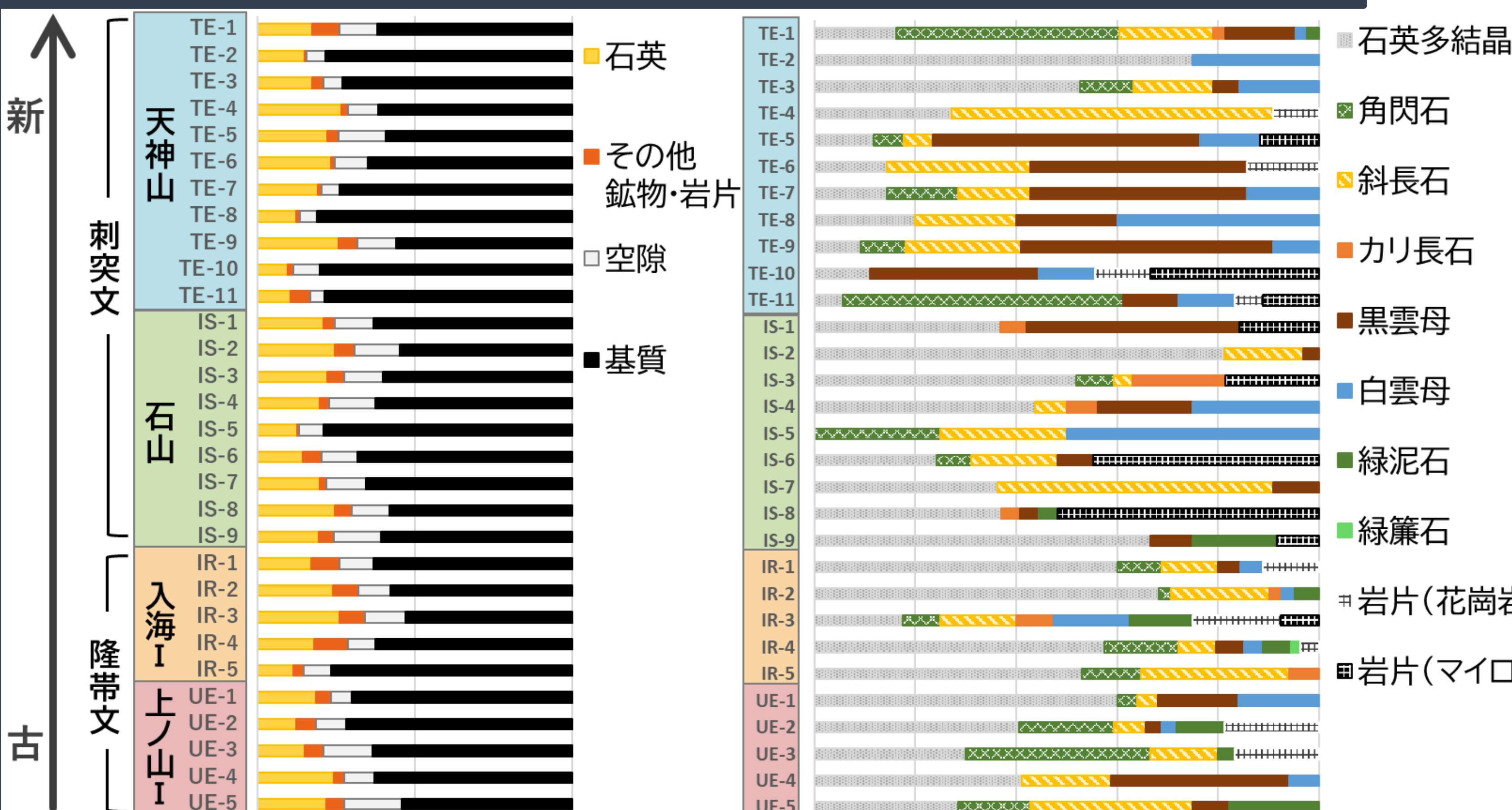


図5 ポイントカウンティング結果
共通点・基本的な構成要素(石英・その他鉱物・岩片・基質(粘土)・空隙)
・粒子が角ばっている、石英が主体(20%程度)
相違点 石山式・天神山式は雲母類が多い

2. 遺跡の概要・分析試料

天神山遺跡(愛知県南知多町): 7600-7000 cal BP (須賀・堀内、2023)
名古屋大学考古学研究室によって1956年に発掘

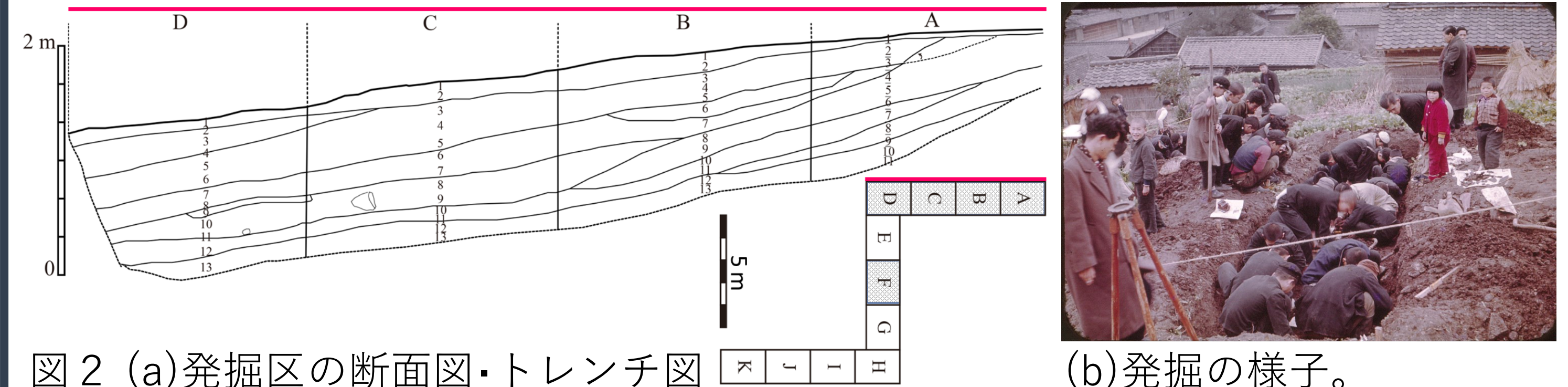


図2 (a)発掘区の断面図・トレンチ図 (b)発掘の様子。
11型式の縄文土器片が層位的に出土した(須賀・堀内、2023)。

文様	隆帯文		刺突文	
拓本				
写真				
土器型式	上ノ山I式(UE)	入海I式(IR)	石山式(IS)	天神山式(TE)

図3 名古屋大学博物館収蔵土器標本。4型式合計30点を分析した。

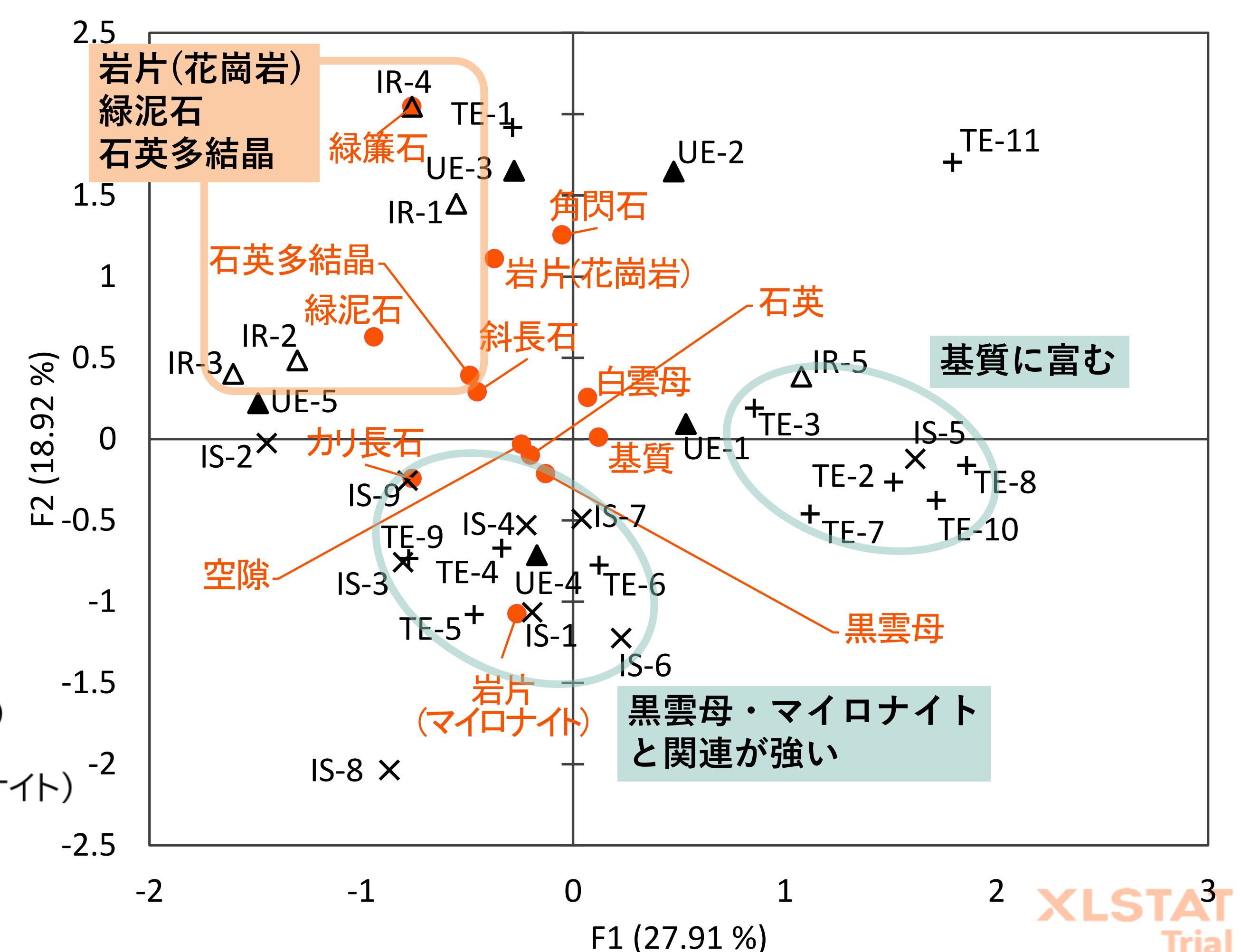
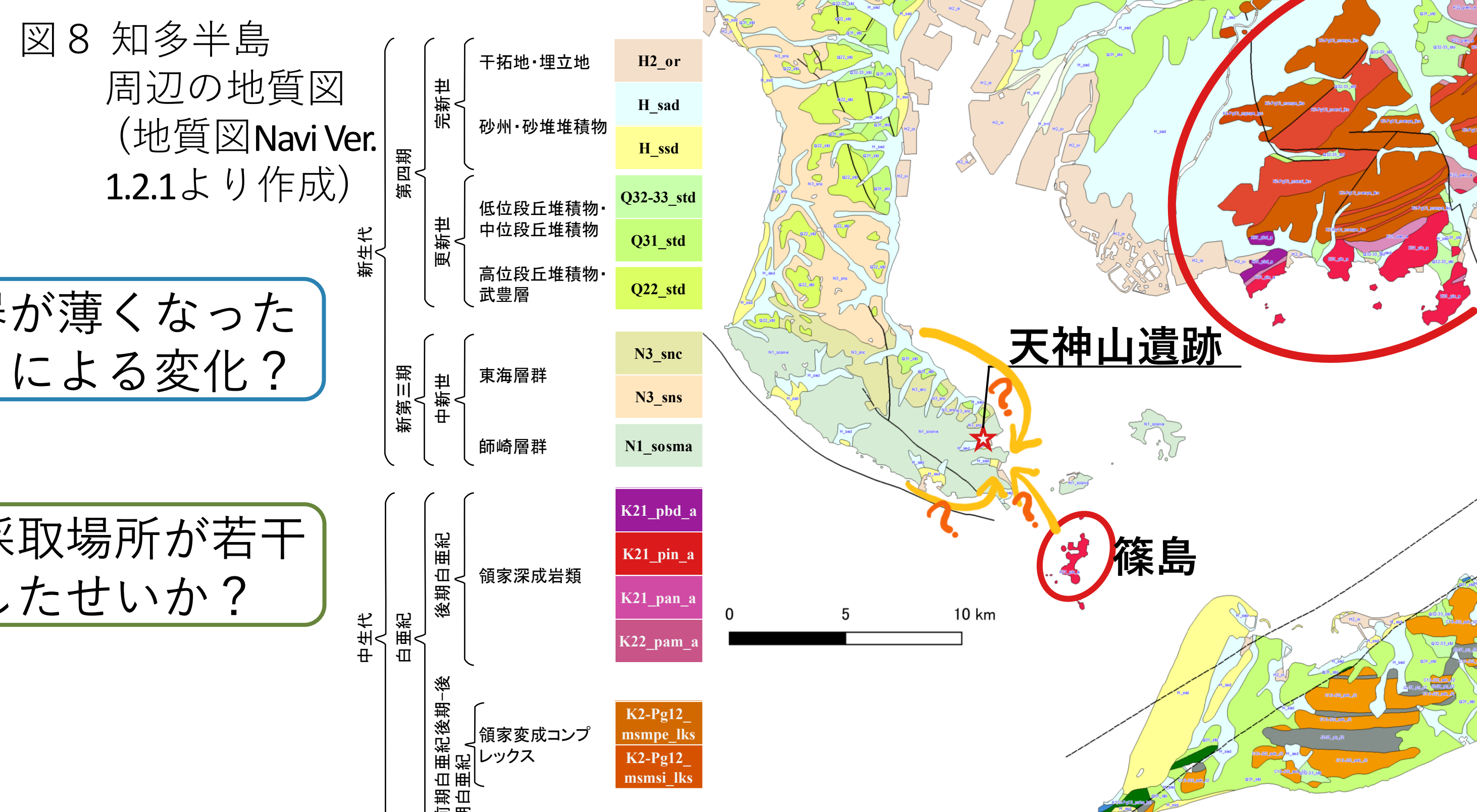


図6 対応分析の結果
▲UE(上ノ山I式): 関連のある構成成分が散漫
△IR(入海I式): 主に散布図左上に分布
×IS(石山式)・+TE(天神山式): 2つの分布域に分かれる

5. 結果・考察

	上ノ山I式	入海I式	石山式	天神山式
共通点	砂の母岩: 花崗岩			
変化する要素	粒径: 大きい	粒径: 小さい	粒径: 小さい	粒径: 小さい
関連する岩石/鉱物	多様	花崗岩・緑泥石・石英多結晶	①基質に富む ②黒雲母・マイロナイト	①基質に富む ②黒雲母・マイロナイト

図7 分析結果(土器型式の変化に対する胎土の変化)
■ 混和砂の起源: 花崗岩(4種類の土器型式で共通)
→土器型式が変化しても、混和砂の選択は基本的に継続
■ 混和砂はどこで採取されたか
遺跡付近の地層ではなく、海岸付近?(篠島・知多半島の海岸・河川砂)
→展望: 土器中の混和砂を海砂・河川砂と比較する



引用文献
須賀永帰・堀内祐花 2023 「愛知県南知多町天神山遺跡出土の土器分析からみた遺跡構造の解明」『名古屋大学博物館報告』第38号, 61-87頁